

前奏 黙想	祈 禱
讃美歌 539 あめつちこぞりて	讃美歌 529 ああうれし、わが身も
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讃 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 ゼファニア書 2:4~7	黙 禱
使徒言行録 8:26~38	主の祈り 564
讃美歌 503 はるのあした、なつのまひる	頌 栄 543 主イエスのめぐみよ
説 教 長崎 哲夫 牧師	祝 禱
『み使いがガザに行けとピリポに命じた』	後 奏

去る10月7日「ガザに」世界の耳目が集まったのは、直接的にはパレスチナ急進派の暴挙にだったが、我々宗教者にはパレスチナイスラエルはかけがえなき「一神教の三つ子」の聖地だったからだ。旧約のガザは、エーゲ海クレタ島の海の民カフトル人通称ペリシテの上陸地(申 2:23)、鉄器を操り(1サム 13:19)、ソロモンに支配され(1列 5:4)、彼らは奴隷売買を弾劾された(アモ 1:6)。新約のルカは、サマリア教会の創始者フィリポが主の御使いに、宦官で北アフリカ・エチオピアの女王カンダケの財務官僚がエルサレムの祭り(礼拝)の帰途、その道がかガザの町か分からぬが、荒れた寂しいところでイザヤ書(53:7)を読みながら帰国して行くのを「彼を追え」と命じられて急行した(行 8:26)と記す。結果、福音は最初に北アフリカ・エチオピアへ行った。

聖書はガザに平和とか豊かさは皆無だが、本来イエスの福音の居場所は「荒野」である。地中海沿岸一帯に根を下ろしたペリシテは(創 10:14)タゴンを主神とし(士 16:23)、前2世紀初頭地中海沿岸にアシトド・アシケロン・ガザ・エクロン・ガデの5都市(ヨシュ 13:3)を形成した。中でもガザには北アフリカ(エジプト)ーメソポタミア間の幹線道路が走り、政治・経済の要衝。それだけにエジプトやアッシリアからの攻撃にも晒され、彼らはアレクサンダー大王の攻略(前 322)後は歴史上から消滅したとも言われる。

「パレスチナ」はペリシテの転訛で聖書にはこれは使用されていない。ギリシャ人は初めフェニキア以南をシリア全土から区別してユダヤの名称をパレスチナと言ひ、此処は第一次大戦(1914-1918)以降トルコの管轄から離れ、イギリスが信託統治したヨルダン川西岸(四国の1.5倍)は、イスラエルの神の嗣業の地(民 34:3)、ヨルダンからベエルシェバ(1サム 3:20)の全地、ヘブル人には「乳と蜜の流れる地」(出エ 3:8)だった。

聖書のユダヤ人がディアスポラ「離散の」と呼ばれたのは遠く、父テラとアブラハムがカルデアのウルを出奔以来(創 8)だが、前722のアッシリア軍のサマリア攻略と同701セナケリブのユダ侵入はイザ 36-39に詳しい。南ユダ、ゼデキヤ王の代にバビロニア王ネブカデネザルによる「バビロン捕囚」は、悲惨で彼らはこの地でペルシャ王クロスによって解放され(エズラ・ネヘミヤ両記を参照)、エルサレム帰還とソロモンの神殿修復が許可された。しかし現地に残留する者が多くあり、ユダヤ人はこの時から改めて「ディアスポラ」と言われた(前 538)。

その後皇帝ネロによる第一次ユダヤ戦争(後 70)、ナチスの「水晶の夜」(1938)を経て世界大戦中600万人のホロコースト(1939)後も彼らはシオニズム止み難く、国連は強引にユダヤ人の自由権利と土地を与えてパレスチナを分割(1945)し、ユダヤの独立の願いを実現した(死海写本発見時)が、一方70万人のパレスチナ人は故郷を追われて難民とされた。その際、パレスチナ人に対するユダヤ人の仕打ちはナチスから受けたジェノサイド以上で、それ以上は無理暴虐でパレスチナ人を痛めた。戦争の悲劇は武器をもって解決せず(ルカ 22:50)、「戦争は戦争を生み出す以外には無い」(明36年内村鑑三)。今目前で、不信と嘘をつき合う戦争から、我々は人間の醜悪さを見ている。(長崎牧師の説教要旨)

本日は長崎哲夫牧師に説教していただきました。次回の長崎牧師の説教は2024年1月28日です。次主日12/3から待降節(アドベント)が始まりクリスマスを迎える備えをします。この日は礼拝後に役員会がありカレーの日でもあります。どなたでも遠慮なくお召し上がり下さい。12/9(土)1:30~3:00 聖書研究会(集会所)。牧師の動き:12/4(月)臨時教区総会。12/6(水)YMCAで聖書のおはなし。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。